

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9 月 10 月度の御金言】されば日蓮貧道の身と生まれて、父母の孝養心にたらず、国の恩を報ずべき力なし。今度頸を法華經に奉りて、其の功德を父母に回向せん、其のあまりは弟子檀那等にはぶくべし。
【種種御振舞御書】（全集 913 頁）

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日掲揚

☆現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)

何十年も前に大学生時代在勤していた法道院の御信者 K さんが、他寺院の役員をされていて、自分達の寺院の法華講の信心の参考にしたいので三寶院の日程表を見せてくれな
いかとの依頼があったので、皆さん方が毎月見ている日程表を毎月送っていました。その K
さんが高齢で天寿をまっとうされ亡くなられた折りに、御遺族が、長い間ありがとうございました
との言葉に添えて、御葬式の時に、故人が法華講員に口癖のように指導していた
という言葉を書いた色紙に印刷して記念品として、会葬者に御配りしたという物を送って
頂いた。その紙には、

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

が、印刷されてあった。この三寶院法華講信条は、私が御書から学んだ中で、これだけは
信仰者として大切にして貰いたいと願い整理し 1991 年 2 月 13 日に掲揚した言葉ですか
ら、私が作ったのではなく、日蓮大聖人の教えの中から選び出したものですので、断りは有

りませんでした。共感してくれたんだなと感じ正直嬉しかったです。しかし、残念な事に、

1、現世利益絶対否定の信心をしよう。

だけが抜いてあったのを見た時に、ああ、この点は、長く信仰を貫いて来た中で、Kさんも初心者時から徹底して現世利益を叩き込まれて、これだけは受入れがなかったのだらうと想像しました。でも、それならば、生前、この事について Kさんと、じっくり話し合いたかったなあ残念だなあと感じました。そして、改めて世の中の全ての宗教も含め、本当に現世利益の麻薬は一人一人の心に深く深く、信仰とは現世利益の為にやるのが当然という思いが DNA のように染みついているんだなと感じました。

三寶院の御信者さんにはいつも、これは何なのだろうと疑問が湧いて来たら、即刻聞いて下さい。聞いて、その時分からなくても何回も何回も聞いて 10 回目 20 回目にハーハーそういう事かと合点がいく事があるから、納得がいかなければ心底信ずる事など出来るわけがないのでありますと申し上げて来ました。信心の道のりとは心に浮かぶ一つ一つの疑問を一切衆生平等成仏の法に照らして、晴らして行く道のりなのであります。【一念信解】という教えが【分別功德品第 17】に説かれています。【一念】とは【信心】の一念で、こうして欲しい、ああして欲しい、この願いを叶えて貰いたいから、御願い事の心を一念として御題目を唱えるという現世利益の南無妙法蓮華經の一念ではなく、心で南無妙法蓮華經を念じ、口で南無妙法蓮華經を唱え、身体で南無妙法蓮華經の法に叶った考え方生き方をしようと努力すること、それこそが【一念信解】であります。まだまだ南無妙法蓮華經が何かの、知識理解が浅くとも、心に南無妙法蓮華經の仏の生命が具わっていることを、かすかでも感じ実感することが心に湧く、頭の良い悪いとか言う知識力理解力では無い純粹な信心の心こそが【信解】なのであります。

先月の日程表でも申し上げましたが、生きていくと必ず、苦しい事、悲しい事、辛い事、悔しい事、人間関係のもつれ、病気、事故、災害、老い、衰え、死の恐怖等々あります。現世利益目的の信心は、これらが自分だけ家族だけには起こらないよう、起こったら軽く、早く通り過ぎて貰いたいという、自分の希望が叶うことが功德だという考え方です。しかし、日蓮大聖人の一念信解の信心は、自他共に不幸だと思える、そうなった時に自分の心を支えてくれる柱、杖になってくれる教えを自分が信じて持っていたんだという事を感謝し喜び、この事の為に信心して来て良かった。けつまついて転倒させられたと思える憎むべき大地であっても、今度は、その大地に手をつかせて貰って支えにして立ち上がるという、変毒為薬の法の道を持っていた事に感謝歓喜し、報恩の心を自覚する。それが【一念信解】という成仏に繋がる南無妙法蓮華經一念の信心なのであります。【現世利益】を思い浮かべながらの南無妙法蓮華經では、自他の生命に南無妙法蓮華經の仏の生命を感じる南無妙法蓮華經一念の信心では無いのでありますから、何十年やっても成仏に繋がりません。自分の感情の中だけの自己満足で、本来十界互具の生命でありながら、仏界抜きで九界の迷い欲望の世界のさまよいで終始する輪廻の世界なのであります。【願いとして叶わざるはなしの信心】の最大最高最上の願いとは成仏であり、成仏出来る法は、唯一日蓮大聖人の法を行ずることのみである事を示された言葉なのであります。ですから、私は、どんなに多数の僧侶が創価学会時代の現世利益が信心だと洗脳されたまま思い込み主張しても、それは日蓮大聖人の教えとは違うから、現世利益絶対否定の信心をしよう。口で南

無妙法蓮華經と唱える時には、心も同時に南無妙法蓮華經とえる。心は自分の願い事を考えているならば、南無妙法蓮華經と信じ唱えている事にはならないと、私は言い続けているのであります。私は毎日朝夕勤行の折りに K さんの追善供養の御祈念を申し上げ、生前に話し合い伝えることが出来なかった、この一大事を法界の大海に溶け込んだ永遠常住の生命の中で K さんに分かって貰いたいと思い願い続けています。